

三獸演談

中

特別
~13
3541
2



登録 3541 號
 第 門
 第 部
 記號
 函架
 平野圖書室

門 へ 13
 號 3541
 卷 2

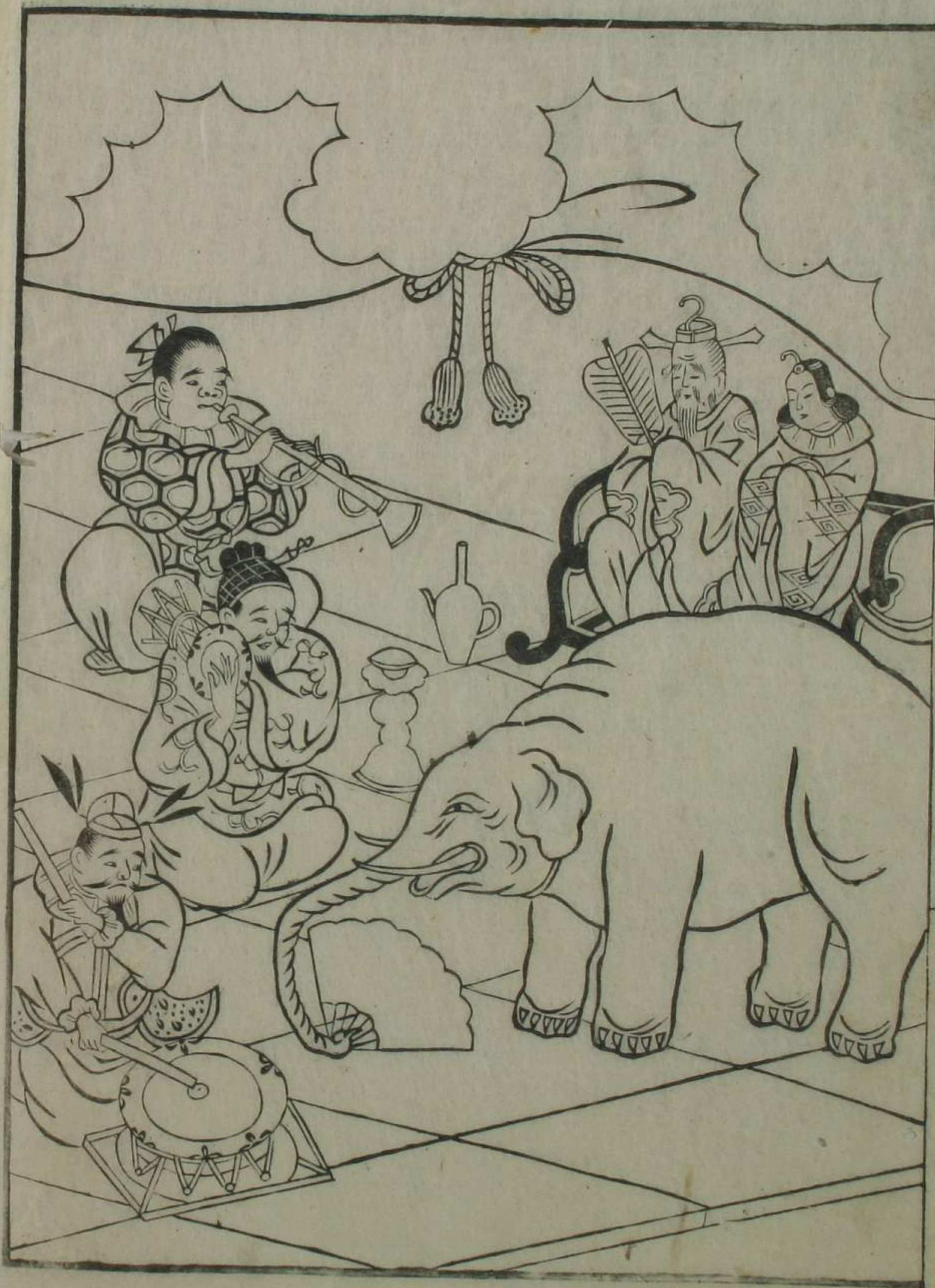
平野圖書室藏
 新演説卷之申

不象鼻の二曲の事

隠士 白龍子 著

昔有てあまりのもお後小噴かたこり先水を
 一高たべいらんを象奴を化くとさるれば象奴たてある
 まんざり小水をたあくとたへまなり象奴をさるて
 老牛小向ひ象奴が象奴中くけ水の曲を江るお高たの
 山麓小は後いお象奴ゆらう一たの具候と山麓小は
 いらんといあよりを象をまんざりの中へ指込鼻
 はんある官中へ水をこくと吸込とくへーが

昭和三十一年
 十月九日
 購求



又わづの山漁もいやはいの水ありし山物終ひ象鼻を
 拵と細く目小角とまきくちらちらなるうか老牛は金枝木
 がらん祖國天下小大功あるものをやまを海一舟く日な
 の半馬の及ぶあふあふに取小南蛮の國王日な津
 國の人乃馬はむるまるとく象鼻を並くあふ象鼻
 象鼻は列をそのふけ附象を並く日な象鼻は
 金の終教干とひく小飾でけ来せしむ其倍声
 せんくと清く象鼻を羅刹象といふ或は象鼻を
 を祀と死羅刹ののあれ象鼻象鼻象鼻象鼻象鼻象鼻
 法阿り是皆た象鼻象鼻象鼻象鼻象鼻象鼻象鼻象鼻

功をのまの流なりを不修く唐の玄宗皇帝ハ
 象を愛して音楽を令せし象を愛しあはく
 りん事と好む流をよ大正年中安禄山叛逆を
 らるる玄宗皇帝を逐るなりて後禄山
 かの象象ともあつち拍子と抄く象一めん
 けれ象とも玄宗の母をよひ禄山が義を怒て
 目を怒一禄山を二回白眼一六禄山を怒て象
 とも悉く坑は埋教といひ是象といふ人の母を
 知り人の不義をゆんで人母を執るるの流あり
 去不唐朝の詩人白居易も勢目禄山終不拜

誰知守義似仁人と作するも象が仁義のいふを
 称すや一ふ何とぞや故不南楚新開小く明皇所
 教舞象天宝之乱禄山大宴胡酋出象給之
 曰此自海南至以吾有天命雖異類以拜舞左
 右教之象皆勢目不動終不肯拜禄山怒盡
 殺之といひ是象の志のいふ英雄の義の士と
 いふも及ぶ何とぞは象のいふの義の士と
 海楚王諱をあらと數十の象の尾小穴指をけ
 其の隙へちられば象怒く其の隙小穴入
 其乃隙小敗せり漢の存を王莽と克す

孫子の阿の也且日本も六十余列の列ありて
風土も異なるも倭の氣質形容も又各列の
も阿の也をくくくく物候はく

老牛武切らふの事

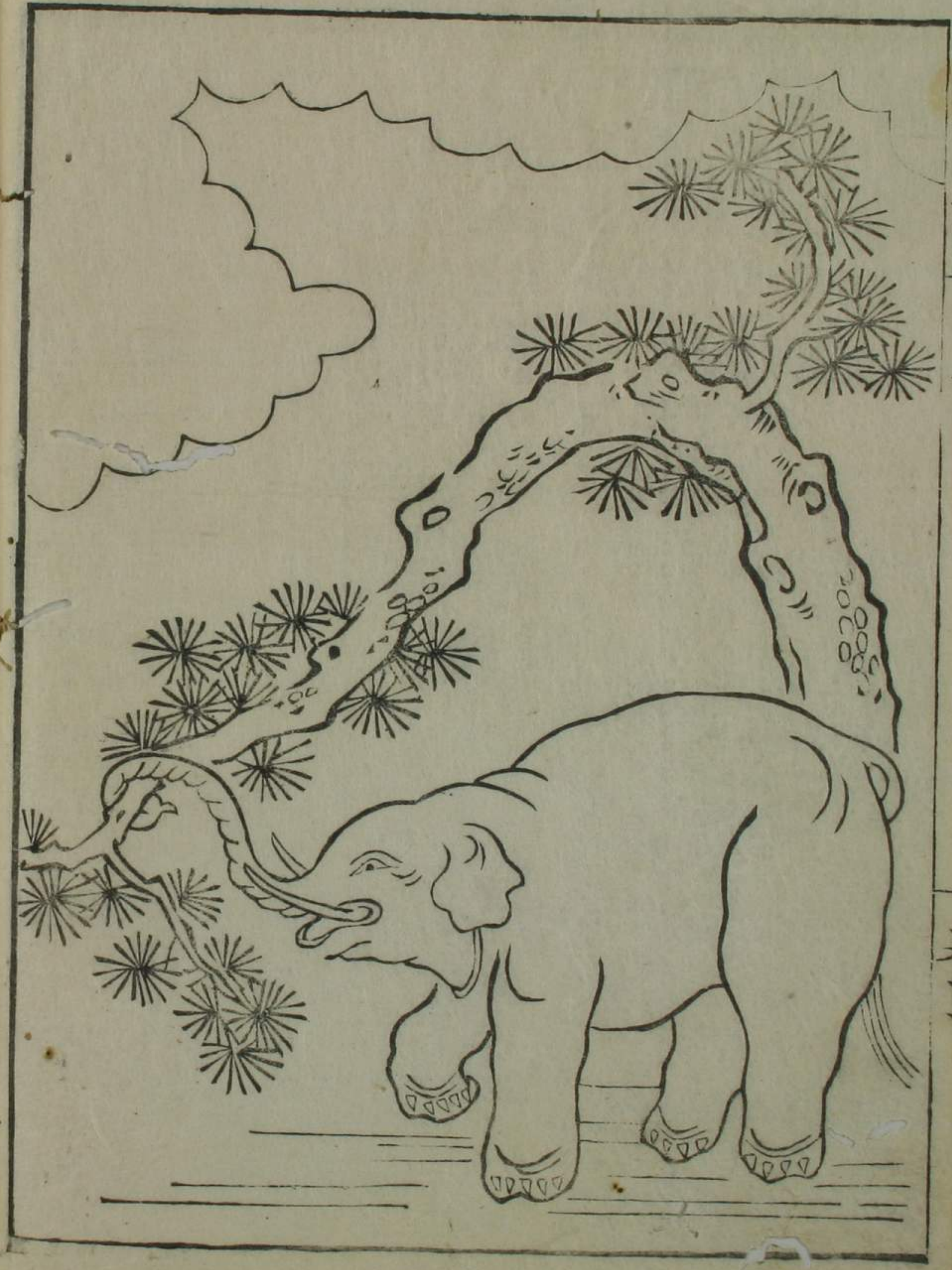
海老老牛角と據立眼を母ん後事もあらうや
國郡も大切あるの和漢も今年ては舞あぐに
ち年のを不雨してち年の切あり乱を不雨く
乱をの切あり治乱の通どく大切となりて
の及ぶ所ありてはるの先祖もあぐ是の海を被
我王莽が合戦の海も不出海せしゆとくどく

それ大海の瀧老牛が一毛といふのあり作部
地も亦なるの職もやらんち年の代はあぐの牛
耕し一耘と脚く大穀と成然せりあぐ万民と共
それのまに手にて負ひていざどり大力の
及はる所を船ひく険阻を乞申遠方ものある
も切是をさるるのあぐもむかひたり日本はひら
しりいとも車牛といふは京は後府の之を新
そりあぐ大坂の妙記なる地といふも車牛と
りよのかしとてはるは一系よとて車牛の類
ハ親方の下部不路ひとてかくとてかく我ハ茶

三載傳記 一巻之中

象の皮を炙あぶき履かぶきかの如ごとく
 の西にし乃のみ牛のうの皮のかわは初はつて強つよく使つかひこす
 及およびびは又また深ふか帷かたびら子こかかとと牛のうをを使つかひこす
 形かたち不ふ切きてて毛けのの如ごとく曝ひけけて布ぬいにに絶とちちりり
 近ちかくく武ぶをを取とりり加か之の孫まご武ぶをを輜そ輶ご車くるまととしして攻こうめめるる
 のは象ぞうの用もちゆる車くるまりりとと四よ方かたををけけ牛のうの皮のかわはは水みづにに洗せんひひて
 洗せんひひてていとと大おほ功こうををかか一ひと枚まいはは牛のうの皮のかわをを楢の小こ舟ふねりりて矢やをを
 ととけけ其その外ほか牛のう肉にくの功こう用もちりりととろろの功こう糟そう漬づけの肉にく膠かほの油あぶら
 角つのの用もち共とも法ほう人ひと不ふ脚かたののままのの万まん病びやうあるるりり牛のう皮のかわもも毒どくくくをを
 の母ははりり阿あ蘭らん院いん人ひとかかどどの象ぞうがが肉にく乳ちゆう結むすみみゆゆににししてて





たりひりかたはむねの大切海はさふ奉てわごとわつと
 いとも誰もそそ一海のらむもかたに腰袋をさる人も
 たりく一匹半の屋のま中へて親方のいさむかはは後様さ
 信天なるらか命わらうか物れも大なるも文王さんおされ
 ざる海一守備所の老老とよまご守王とあるものもけへうに
 伴尹も満王も奉用ひらねんはけ渡お飲百姓の言やて
 阿衡の位やもむさうに法高孔明も劉海のあけの
 入る小粒をころくおまんが末代隠遁者のあくあつと
 きそ草木禽獸とけを回あく一せを終かん小海きすもた
 海きよせん明貴哲のまふらんおさして天个の客の

一六二頁
 一六三頁

